

# 大戸川ダム計画の見直し案

## 参 考 資 料

平成15年5月16日

# 第1章 大戸川ダム周辺の環境の現状

## (1) これまでの環境影響調査

H1～4年 環境影響評価に準じた検討の実施

H13～14年 付替県道・工所用道路に係わる生態系保全検討会の設立と調査・対策の実施

# (2) 環境調査実施状況

(昭和53年度～平成13年度)

項目		年度		昭 和									平 成												
		53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
環境基準調査	流量・雨量	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	水質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陸上植物					○	○	○	○													○	○	○		
大型水生植物												○													
付着藻類					○	○						○													
哺乳類							○														○	○	○		
鳥類							○					○	○	○							○	○	○	○	
魚介類					○	○						○													
両生類 は虫類										○		○									○	○	○		
陸上昆虫類								○	○			○	○								○	○	○		
底生動物					○	○						○									○	○	○		
備 考				51,55 年度に 文献調 査実施								環境影 響調査	環境影 響調査 の送付 と閲覧			知事意 見に関 連する 事項							「検討 委員会」設 立	「検討 委員会」開 催	

# (3) 大戸川ダム周辺の動植物

過去に行った環境調査における、確認科・種数及び各基準による重要種の確認種数は、次のとおりです。(各重要度は、省略)

種 類	確認科数	確認種数	天 然 記念物	種 の 保存法	環境庁 RDB RL	近 畿 RDB	滋賀県 RDB
陸 上 植 物	146	1,145	—	—	14	39	42
付 着 藻 類	28	140	—	—	—	—	—
哺 乳 類	12	21	—	—	—	—	5
鳥 類	41	124	—	*1 3	9	58	71
は 虫 類	7	13	—	—	1	—	7
両 生 類	5	13	—	—	1	—	11
昆 虫 類	368	2,746	—	—	4	—	20
魚 類	11	29	—	—	4	—	22
底 生 動 物	24(目)	292	—	—	2	—	2

\*1 オオタカ、クマタカ、ハヤブサについて調査対象範囲内での営巣は確認されていません。<sup>4</sup>

## (4) 動・植物の生息・生育状況： 陸域(植生等)

- 大戸川ダム事業実施区域およびその周辺の植生は、ほとんどが代償植生(自然植生の代償として二次的に生じた植生)であり、アカマツーモチツツジ群集、スギ植林・ヒノキ植林、コナラ群落等が広い範囲を占めています。
- この他に、谷間を中心に水田や畑、集落も点在しています。



# (5) 動・植物の生息・生育状況： 陸域(動植物相)

- 森林・農耕地・草地など、それぞれの環境に適した動物が生息しており、西日本の低山地で多くみられる動・植物相といえます。



# (6) 動・植物の生息・生育状況： 陸域(特徴的環境)

以下の環境は、当該地域の動・植物にとって特徴的な環境と考えられます。

## 花崗岩の不透水層に形成された貧栄養湿地

ヘビノボラス、モウセンゴケ、ミミカキグサ、キンコウカ、ミカツキグサ等の湿地性の植物が生育



## 谷に点在する湿地

ムラサキミミカキグサ、ミカツキグサ、サギソウ等の湿地に特有の植物が生育し、モリアオガエルやダルマガエル等の両生類が生息



# (7) 動・植物の生息・生育状況： 河川域

- 河川規模は大きくないものの、全般に平瀬の形状であり、瀬や淵が交互になって川らしい形態を持ち、魚類の生息に必要な環境を備えています。
- しかし、河川内が床止工や灌漑用の取水堰、発電・砂防用の堰堤など合計19の河川工作物で分断されていることや、電力取水による減水区間が存在することで、水生生物には厳しい生息環境となっています。



床止工



砂防堰堤



## (8) 猛禽類の確認種

- これまでに、大戸川ダム事業実施区域およびその周辺において以下の11種の猛禽類の出現が確認されています。
- ミサゴ、ハチクマ、トビ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、サシバ、クマタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウ



# (9) 陸域代表(典型)性

陸域生態系において典型的な  
生息・生育環境の類型区分

- アカマツ林
- スギ・ヒノキ植林
- 落葉広葉樹林



アカマツ林

陸域生態系において特徴的な  
生息・生育環境の類型区分

- ヒメコマツ林
- 湿地環境



ヒメコマツ林

# (10) 河川域代表(典型)性

- 河川域についても、河床勾配、河床材料、瀬淵構造等をもとに生息・生育環境の類型区分の想定を行い、代表地点において動・植物調査を実施します。



## (11) 猛禽類の調査

- 猛禽類のハチクマ、オオタカ、サシバは、事業実施区域およびその周辺で繁殖している可能性が考えられるため、今後も調査を継続していきます。

# 第2章 付替県道・工事用道路に係わる生態系保全

付替県道・工事用道路の建設にあたっては、生態系保全検討会の指導を得た上で、現地のモニタリングを行い、調査及び保全対策を実施したうえで工事を行います。

また工事実施後には、生態系保全・回復のために期間をおいて、フォローアップのための現地モニタリングを実施し、適宜、必要な措置を実施します。

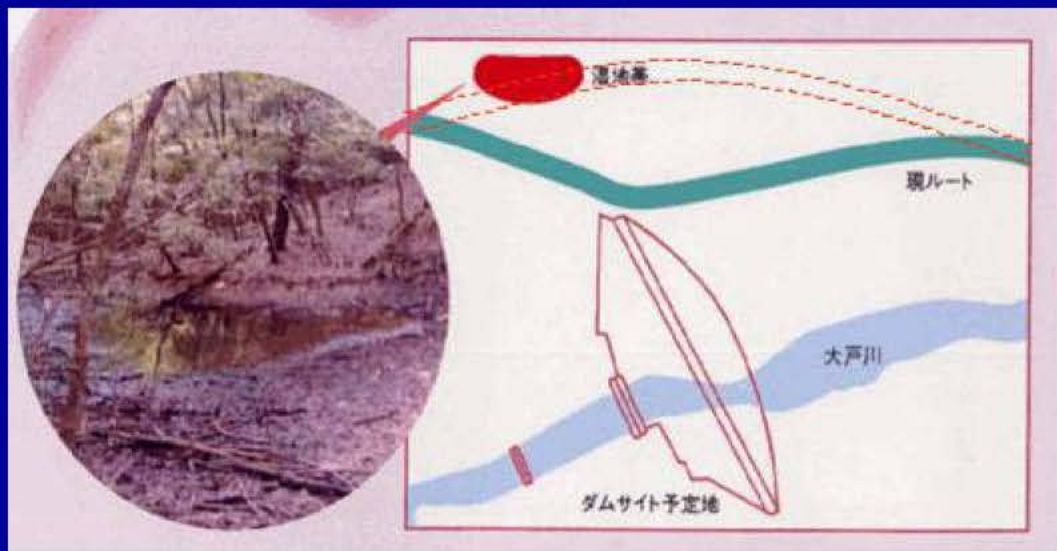
《環境アドバイザー(順不同)》

小林圭介(滋賀県立大学名誉教授)、保田淑郎(大阪府立大学名誉教授)、白附憲之(元武庫川女子大学教授)、松井正文(京都大学教授)、高柳敦(京都大学講師)、村長昭義(八日市南小学校教諭)

# (1) 付替県道のルート変更

## 湿地帯の保全

貴重な両生類や昆虫が生息している湿地帯の保全を優先した付替県道のルートを決めています。

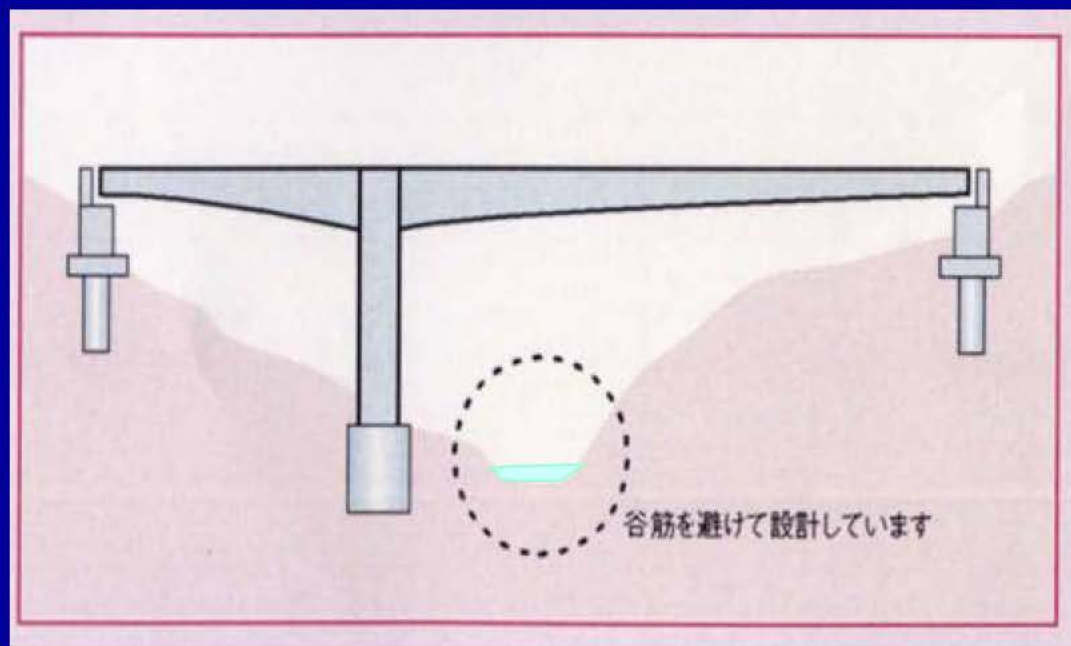


## 環境への配慮

法面の改変をできる限り少なくし、貯水池内に張り出させることで、景観環境・走行性に配慮したルートを決めています。

## (2) 橋脚位置の変更

水が集まり、動植物にとって大切な生活圏である谷筋を避けて橋脚位置を決定しています。



# (3) その他工事中の環境対策

## 貴重植物の移植

橋梁工事予定箇所  
で確認された貴重植  
物(イシモチソウ、ト  
ウカイモウセンゴケな  
ど)を専門家の指導  
のもと移植しました。



移植作業の状況  
(平成14年7月)



平成13年 土木の日

## 植樹による法面保護

道路法面には、地元  
小学生にも協力してもら  
い、植樹を行っています。  
なお、樹種については、  
在来種を選定しています。



# 第3章 ダムに関する環境保全策 の検討

- 1) 水量
- 2) 水質(水温)
- 3) 動植物
- 4) 土砂移動の連続性
- 5) 魚道

について改善策を検討していきます。

# 第4章 大戸川流域のあるべき姿

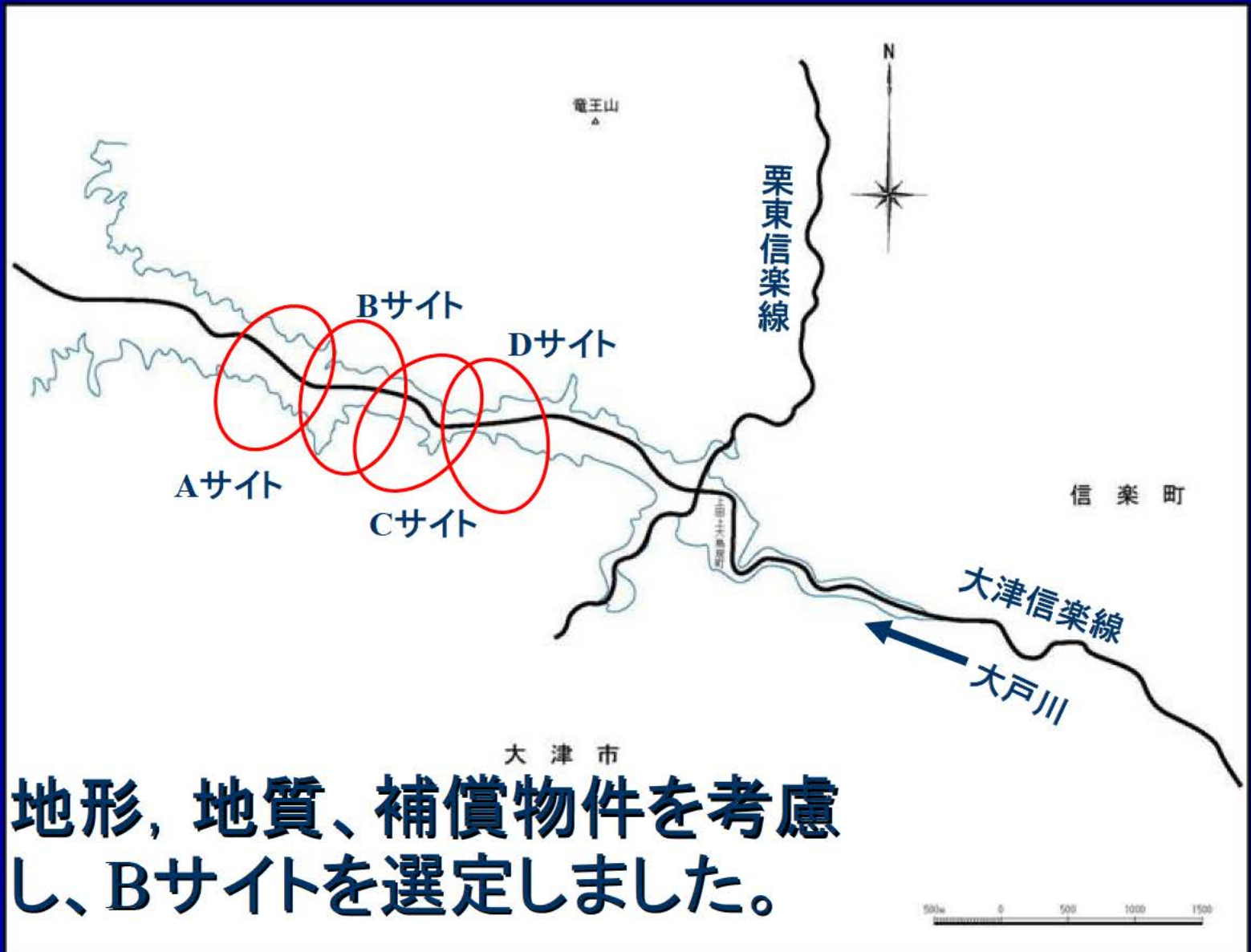
## (1) 流域のあるべき姿

- 大戸川での魚類の遡上と降下を図ることで生物の連続性の確保を図ります。
- 土砂移動の連続性を図ります。
- 水辺移行帯の再生・回復を図ります。
- 里山と水辺の連続性の回復を図ります。
- 山地の植生の回復を図ります。

## (2) あるべき姿にするには

- 生物の連続性が図れる河川の縦断形状への回復について検討します。
- 流砂系が保全され、自然のかく乱を維持することを検討します。
- 里山と水辺の連続性の確保について検討します。
- 山地の植生回復を検討します。

# 第5章 ダムサイトの選定理由



地形、地質、補償物件を考慮し、Bサイトを選定しました。